

「子育ては自分育てという言葉の意味を考える」



むらまつのりこ
村松訓子教育委員

孫と向き合って触れ合って、親も子どもと共に成長するのだなと実感しています。若いお母さん方には、ファミリーサポートなど地域の子育て支援情報を知り、うまく利用しお盆をはさんで一週間、3歳になる次女の息子(孫)をあずかり、久しぶりにつかの間の子育て奮闘を体験しました。孫は3歳児にしては言葉が遅いのですが、初めて耳にする言葉には、オウム返しで大人の真似をしながら、単語を一つずつ習得しています。大人の発する言葉や接し方をとても敏感に興味深く感じ取っているのが分かります。そんな様子を見ていると、大げさかもしれませんが一番身近な大人である親が発するささいな言動一つが幼児期の子どものこれからの生き方に影響を及ぼすのかもしれません。人を一人育てるということは、そのくらい大変な責任があるのだと思います。

親の言動一つで子どもの考え方や生き方が変わっていくとしたら、親としてはいい加減な対応ばかりしてはいられません。子育て奮闘の真っ最中であつたとしても、ふと自分が子どもに投げかけた言葉に対して、自分が子どもの頃は、どう感じただろうか、親からこんな言葉を言われたら子ども心にどう思うだろうかと常に自問自答し、自分自身を振り返ってみる、見つめ直してみる、そんな気持ちのゆとりが「自分育て」につながっていくのではと思います。

自分自身の子育てもドタバタで終わってしまい、子どものわずかな成長を楽しみながらなどという余裕すらなかったように思います。

「ながら育児」を楽しんで欲しいと思います。かけがえのない「自分育て」の時間を・・・。

6次産業学習の支援(恵那南高等学校の活動)

(教育総務課)

6次産業とは、農業や水産業などの第一次産業が食品加工・流通販売にも業務展開している経営形態をいい、このような経営の多角化を6次産業化と呼んでいます。

平成 28 年度から岐阜県立恵那南高等学校と恵那市、株式会社恵那川上屋の三者協定を結んで、恵那南高校の6次産業学習の支援を行っています。

この学習は、地域特産である栗を使用し、恵那川上屋の知識と経験を借りて、栗の生産から加工販売までのノウハウを学ぶものです。1年生から3年生までの南高校の生徒は、講義や栗の圃場で剪定の手伝いなどを行い、商品化やマネジメントの授業も学んでいます。

現在は、栗を使用したスイーツの商品化などを生徒等が中心に考案しています。こうした商品は、明智町や恵那川上屋で販売もされます。

このような授業を通して、6次産業について知識と理解を深め、地元企業などに就職していただけるように期待したいと考えています。



栗の剪定作業をする生徒たち

毎年通学路合同点検を実施しています

(学校教育課)



通学路の点検をしている様子

H26年度より恵那警察署、道路管理関係者、市役所(建設課、農政課、危機管理課、学校教育課)等の関係機関と学校による通学路合同点検を実施しています。

H30年度は、7月31日に各学校から持ち寄った危険箇所について写真付きの資料を書類審査し、より危険な箇所を絞り込み、8月21日・22日に現地調査を実施しました。

「見通しが悪い」「歩道の幅が不十分」「横断歩道が無く危険」等について現地で専門家の目から点検を行いました。朝の通勤時間帯に車の量が多く、スピードが出ていることに起因するものが多くを占めることがわかりました。

■今後の安全点検

今回の合同点検実施までの流れの中で、今後白線や看板設置等ハード面の整備を依頼していくとともに、車の運転者への安全運転の啓発や、児童生徒が自分の命は自分で守ることができるよう学校における安全教育を充実していくことが急務であると感じました。

また、H30年度は新潟の事件や、大阪のブロック塀倒壊事故により、通学路における防犯の視点や、環境に関わる視点にも目を向ける必要感が高まりました。そこで、次の点について、取組を充実させていくようにします。

1. 地域における連携強化（*「子ども110番の家・車」の確認）
2. 通学路の安全点検の徹底と環境整備・改善(防犯の視点から)
3. 不審者等に関する情報の共有
4. 登下校時の児童生徒等の安全管理の徹底
5. 児童生徒等に危険予測・回避能力を身につけさせるための安全教育の推進

ぬいぐるみおとまり会を開催

(恵那市中央図書館)

中央図書館(伊藤文庫)では、「いつでも どこでも 本を」を目指して、子どもから大人まで全ての市民が生涯にわたって学び続けていくように「読書活動の推進」をすすめています。

今回、子どもの読書活動を推進するため「ぬいぐるみおとまり会」を開催しました。これはアメリカの図書館で始められたイベントです。図書館に来た子どもたちはぬいぐるみと一緒に司書から絵本のお話を聞いた後、ぬいぐるみを寝かしつけます。子どもたちが帰った夜中に、ぬいぐるみが起き出し絵本を読み、持ち主の子どものために本を選びます。そして翌日ぬいぐるみを迎えに来た子どもにその様子を写した写真と一緒に絵本が手渡され、この絵本はぬいぐるみがあなたのために選んでくれたよと伝えられます。ぬいぐるみが図書館を探検したり、本を借りる様子がツイッターでも配信され、子どもからみると大好きなぬいぐるみが選んだ本を受け取ることで、子どもの自発的な読書を促進することができ、もっと本が好きになると思います。



本を読むぬいぐるみたち



子どものために本を借りています